

「小学生の音楽」点字教科書の概要（令和6年4月）

点字楽譜記号等の扱いについて

小中高の音楽点字教科書については、文部科学省編『点字楽譜の手引』（初版1984年）に基づいて編集されています。ただし、文部科学省編『点字学習指導の手引 令和5年改訂版』の第8章6節「点字楽譜指導における配慮事項」に、点字教科書の点字楽譜記号等について記載された内容が優先されます。

（1）点字楽譜記号の扱いについて

五線譜と点字楽譜とは、基本的な表現形式が大きく異なり、配慮が必要です。

ア. 点字楽譜は図形譜ではなく文字譜

五線譜は音高・音長の図形的な表現を抽象化した図形譜であり、原典では音高の図から五線譜への導入となっていますが、点字楽譜は6点の点字記号による表現であり、点字の構造を踏まえて、「ドレミ」と歌詞の2行セットの表現とするなど、配慮しています。

イ. 「点字楽譜の説明」の挿入

点字楽譜の音符の構成や諸記号については、2年から五線譜記号の学習が始まりますので、2年では「点字の楽譜」（説明）を巻の最後に、3年から6年では、学年進度に合わせた説明を巻の最初に、「この教科書の書き方と点字楽譜について」として入れています。

（2）点字教科書のレイアウトについて

五線譜は音高・音長を図形的に表した図形譜であり、一つの五線譜で、歌詞を読み、主な旋律だけをたどり、その後で強弱を付けて、用途別に読み分けることができます。また、合唱譜でも、一つの五線譜で、上のパートをたどり、下のパートもたどることができます。

しかし点字楽譜では、音符と次の音符との間に強弱記号や和音の記号などが入りこみますので、そのまま一つの点字楽譜としただけでは煩雑すぎて読譜が困難です。そのため、歌の楽譜では、最初に「歌詞」をまとめて書き、次に音符・休符だけの「主な旋律」を添え、そのあとに強弱の記号も付けた楽譜とし、読譜する順序に合わせて記載しています。また、合唱譜や合奏譜についても、原則としてパートごとに記載しています。

（3）階名の「ドレミ・・・」についての注意

点字楽譜は絶対音の表記であり、「ドレミ…」も「固定ド」（ハ長調・イ短調読み）の表現を原則としています。移調は小学校段階では学習しませんが、掲載曲にはハ長調やト長調なども多くあります。学習の過程で移調譜の「階名読み」も行う場合には、「点字楽譜は固定ドの表現」であることへの配慮が必要です。

（4）令和6年度からの一部変更について

令和6年度の点字教科書から、次のように一部変更されています。音部記号については、通常は点字楽譜では不要ですが、五線譜の記号の説明に使用されます。

ト音記号 ⠠⠠⠠⠠ （従来使用のト音記号は ⠠⠠⠠ ）

ヘ音記号 ⠠⠠⠠ （従来使用のヘ音記号は ⠠⠠⠠ ）

ダル・セーニョ記号 D. S. は、 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ （従来は ⠠⠠⠠ ）となりました。

（「小学生の音楽」点字教科書では、記号を使わず、演奏順に記載しています。）

オクターブの高さを示す記号 (octave marks) の名称：「オクターブの記号（音列記号）」
以上